

ロジスティクス環境会議

第5回環境パフォーマンス評価手法検討委員会 議事録

・日 時：2004年7月29日(木) 15:00～17:00

・場 所：東京・千代田区 東海大学交友会館 朝日

・出席者：19名

・議 案：

- 1) データ収集方法ガイドの完成イメージについて
- 2) その他

・開 会

定刻、増井委員長により、開会が宣された。

・環境パフォーマンス算定実態調査の結果報告【資料1-1、1-2、1-3】

事務局より、資料に基づき、先に実施した「環境パフォーマンス算定実態調査」について、L E M Sで仮説的にまとめた算定の標準式、代替式の比較を行った「二次集計結果」の報告が行われた。結果として、包装については、使用されている指標、算定式が各社様々であり、L E M S標準(代替)式とは違いがあるが、輸送については、標準(代替)式が使用されているケースが比較的多く、L M E Sの仮説的な算定式を軸に進めていくことが可能なことが確認された。

また、先の委員会でアウトプットとして合意された、環境パフォーマンスの算定のためのデータ収集ガイド作成にあたり、荷主企業2社、物流企業1社に行ったプレヒアリング調査の結果が報告された。

詳細は「資料2」参照

・議事の経過

1. 議 事

増井委員長の司会進行のもと、以下のような議事が行われた。

1) データ収集方法ガイドの完成イメージについて【資料4-1、4-2】

事務局より、資料に基づき、データ収集方法のガイド(以下、ガイド)の目次構成と、ガイドを作成するにあたり、委員メンバーからデータ項目、データ項目の入手方法(調べ方)等について情報提供いただくための、調査フォーマットについて説明が行われた後、「以下のような意見交換が行なわれた。

【主な意見交換の内容】

- 【委員】自社では未だ算定する段階にまだ至っていないが、協力できる範囲で情報を提供すれば良いのか。
- 【委員長】可能な範囲で是非協力いただきたい。また、算定するに至るまでのボトルネックや困っていることがあれば、是非お知らせいただきたい。
- 【委員】物流企業として、委託先（庸車）に対する排出量の取り方を是非とも知りたい。
- 【委員】物流企業として、自社の保有している分については把握しているが、荷主毎に按分することは現状では難しい。
- 【委員】先ずは自社分が把握できていれば良いのではないか。按分については、方法論が確立した段階で実施するしかないのではないか。
- 【委員】事例集のまとめ方については、算定式毎にではなく、企業毎にまとめた方が良いのではないか。
- 【委員】算定方法に関する事例集は海外でも見たことがない。これをベースに議論を重ね、日本発のスタンダードを作りたい。
- 【委員】今回の調査は、パフォーマンス委員会だけで行うのか、環境会議全体で行うのか。
- 【事務局】他委員会でも共通しているが、先ず各委員会でアウトプットを整理したうえで環境会議全体に調査対象を拡大することを検討したい。

以上のような意見交換が行われた後、以下のようにデータ収集方法ガイドの作成を進めることが確認された。

- (1) 今回のデータ収集方法ガイドは、「輸送」の部分を対象とする。
「包装」は先の実態調査結果からも、使用されている指標、算定式が各社様々であるため、次のステップで検討する。
- (2) 今回の調査対象は、当委員会メンバーに限定して行う。
- (3) データ収集方法ガイドに盛り込む内容については、委員会メンバーから情報を提供いただく。情報提供いただくフォーマットは資料4-2をベースに、課題、困っていることや荷主として欲しいデータならびにその優先順位が記載できるようにする。
- (4) データ収集方法ガイドの事例集のまとめ方については、算定式毎にではなく、企業毎にまとめる。

2) 今後のスケジュールについて

第6回委員会

日時：8月31日（火）15 - 17時

会場：芝パークホテル 別館2F アイビー

第7回委員会

日時：10月1日（金）15 - 17時

会場：未定

2. 閉会

以上をもって全ての議事を終了し、増井委員長は閉会を宣した。

以上